

NIVR

**重度障害者の職域拡大のための
総合的就労支援技術の開発
— その2 —**

1996年10月

日本障害者雇用促進協会

障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

まえがき

障害者職業総合センターは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、職業リハビリテーションに関する調査・研究、障害者の雇用に関する情報の収集・分析・提供、職業リハビリテーション施設の運営・指導、専門職員の養成・研修、障害者に対する職業リハビリテーションサービスの提供などの事業を行う総合的な施設として、労働省の認可法人である日本障害者雇用促進協会によって運営されております。

このため、当センターでは、職業リハビリテーションの各領域にわたる調査研究を広く実施するとともに、その成果を研究調査報告書その他の形で取りまとめ、関係者に提供しております。

そのような調査研究の一環として、当センターは平成5年度より、「重度障害者の総合的就労支援技術の開発に関する研究」を進めております。本研究は、コンピュータを利用したオフィス業務における重度障害者の職域の拡大、雇用の促進のための就労支援機器・ソフトウェアの開発を目的とする研究開発プロジェクトであります。本報告書は、上肢障害者用大型・小型特殊キーボードと視覚障害者用 Windows 画面読み上げソフトウェアの第一次試作の結果を取りまとめたものです。

前者は、通常のコンピュータキーボードと比べ、大型と小型の2タイプのキーボードを開発するものです。さらに、これらキーボードには、上肢障害者のキー入力を容易にする種々の機能が組み込まれます。このようなキーボードを使用することによって、これまで入力作業が困難であったり、能率が悪く疲労も大きかった、多くの上肢障害者のコンピュータ操作の能率向上が期待できます。

後者は、現在職場を含め我が国でも急速に普及しているパーソナルコンピュータの基本ソフト Windows を、視覚障害者にも利用可能にするソフトウェアの開発です。具体的には、マウス等を使って画面上のアイコンやその他の選択対象をクリックしたりドラッグする Windows の操作を、視覚障害者は音声付きのキー操作で行えるようにするもので、これによって視覚障害者のコンピュータ利用が促進され、その職域の拡大が期待できます。

なお、本報告書は、障害者職業総合センター雇用開発研究部門適応環境研究担当の岡田伸一、渡辺哲也、八藤後猛（現在日本大学理工学部建築学科）が執筆しました。

このような内容の本報告書ならびに本研究が、わが国における職業リハビリテーションを前進させるための一助になればと願う次第です。

1996年10月

日本障害者雇用促進協会
障害者職業総合センター

執筆担当者

岡田 伸一(適応環境研究担当主任研究員)	第2部6章
八藤後 猛(適応環境研究担当研究員)*	第1部
渡辺 哲也(適応環境研究担当研究員)	第2部(第6章を除く)

*現在日本大学工学部建築学科

1996年10月